

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	環境を整え、落ち着いた暮らしの中で理念の実践につとめている。	「身近な人々やゆたかな自然とたくさんふれあって…」から始まる独自の理念があり、目につきやすい玄関ホールに掲示されている。毎朝のミーティングの際や毎月10日前後に行われる職員会議で確認し合っている。理念にそぐわない言動が見られた場合には介護を受ける側の立場になって職員同士で考え課題の解決に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行政や近隣の住民との交流の機会を作ったり、広報などで事業所を理解し協力してもらっている。	毎月27日のお茶のみ会に10人前後の地域住民が来訪し入居者とふれあっている。近くにある保育園の運動会に招待を受け園児達も散歩の途中にホームに立ち寄り、中学生の体験学習の受け入れや高校生との交流もある。童謡を歌う会、絵手紙の会、ピアノ演奏などのボランティアの来訪もあり親交が深まっている。今年度、村役場から「協働のむらづくり事業」の声がかかり、地域の活力を生み出す事業に法人と共に取り組もうとしている。ホームは地域に根付き貴重な社会資源となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の折に、事業所での利用者の生活を伝える中で理解していただけるようにつとめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	徐々にではあるが、事業所への理解が深まってきている。	今年度の運営推進会議の開催は1回と少ないが、地域代表者、民生委員、消防団長、駐在所警官、地域包括センター職員などが参加し行なわれている。ホームの運営や活動状況の報告、防災対策などについて話し合っている。	毎月27日に実施されているお茶のみ会の前後に会議を合わせたり、お茶のみ会に参加していただくなど、推進委員が出席しやすいような環境を整えられることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や年次総会などの出席をお願いする中で協力していただいている。	役場は近くにあり職員の来訪を受けたり、管理者が出掛けたり、ホームの計画作成担当者も情報収集のため連絡を取っている。運営主体である特定非営利活動法人の年次総会にも役場職員が出席している。双方向で行ったり来たりの良い関係が築かれており、法令等の変更についても情報を届けてくれる。村独自の「共同のむらづくり事業」でも連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日のミーティングにおいて、ケアの実情を再確認している。	日中玄関は開錠しており入居者は自由に入出りできる。万が一の離脱の際にも近所の方と顔見知りとなっているので住民からホームへ連絡が入る。職員も会議時の勉強会で身体拘束について学び正しく理解している。拘束に当たるか当たらないかの判断に迷う時には会議でも話し合いお互いに確認し身体拘束のないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングにおいて、ケアの実情を再確認している。職員会や外部での研修会に参加している。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外の研修会に参加し、事業所内で復命している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度の家族会を、会食会、温泉旅行などと工夫した中で意見を聞いて、運営に生かしている。	家族会は大勢の家族が参加出来るように行事を入れたりお茶や食事を用意し和やかな雰囲気で行われている。毎月開かれており、年2回は日帰り温泉に出掛けている。その場で得た要望や意見等はサービスの向上に繋げている。入居者のホームでの様子に気にかかることがある場合には計画作成担当者から文書で家族宛に報告しており意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会に、日ごろの意見や問題を、共通認識の中で解決している。	毎月10日前後に職員会議を開いている。職員はお互いの意見や提案を尊重し、入居者が6人ということもあり、職員全員で入居者の情報を共有している。管理者は常に職員の話に耳を傾け、話し合いや意見交換を行っているので、相互の信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全てについては整備は、まだ行き届かないが、働き甲斐のある職場として、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大いに実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会は実施されている。会議報告は復命している。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してサービスを受けてもらえるように、職員全員で関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾けたり利用者の様子を数日おきに伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、誰彼と隔てなく平等にかつやさしく対応し、暮らしを共にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問を歓迎し、また本人の様子は、細かく報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちを職員一同一丸となって大切に接待し、交流の場をつくっていただいている。	縁者の毎月の来訪を心待ちにしている入居者がおり居室等で歓談している。ホームとしても入居者が昔馴染んだ場所や人を大切にしており、関係が継続出来るよう支援している。友人や知人から年賀状が送られてくる入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話し合いの中では皆の話題を出し合うように努めている。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば応じる体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子を把握しながら、介護計画に取り込んでいる。	殆どの入居者が自分の思いや要望を表出できる。職員も日々の関わりの中で一人ひとりの気持ちに沿うよう話しかけを多くし、表情や言葉、小さな仕草などを見逃さないようにし支援に当たっている。ミーティングや職員会議で情報を持ち寄り、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人とのコミュニケーションをとり把握につとめている。家族の協力が大きい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングにより、その日の方向性を共通に認識しあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の様子から、本人の希望、職員、家族の意見を組み込んで介護計画を作成している。	入居の際の聞き取りや家族会の際に聞いた情報を基に本人の意向なども確認している。平均介護度も4、90歳以上の方が3人と日々刻々変化している中、毎日のミーティング等で気づいた新たな情報も加え、現状に沿った介護計画を作成している。介護計画は6ヶ月に1回見直しをしており、1ヶ月に1度全入居者のモニタリングも実施し、状態に変化が生じた時には即時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録により介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	6人のユニットなので本人の状況にあったニーズの対応は十分できている。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵手紙の会、童謡を歌う会、ご近所の皆さん他との交流を取りいれて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人も交えて、かかりつけ医との関係を築いている。	訪問調査日に歯科医師の往診があり居室で治療を受ける入居者がいた。本人や家族の意向を踏まえながら適切な医療が受けられるように支援している。ホームの協力医が入居前からのかかりつけ医であった入居者も多く、往診も可能である。遠方の医療機関への付き添いは家族にお願いし、近くの協力医院等へは職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないので、かかりつけ医と常に連絡をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者と情報交換を蜜にしている。今年度も3人が入院して、退院後も施設で暮らしてきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師と事業所間の話し合いを持って、方針の共有をし、現在も支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合や看取りの支援に関する方針を説明し同意書を頂いている。今年度2名の入居者が亡くなった。看取りを行なった経験から、本年度も協力医による終末期の指導をお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	時に応じて練習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害訓練をしている。	年2回の訓練のうち1回は消防署の指導を仰ぎ、夜間を想定した通報、避難訓練、消火器の訓練を行っている。あとの1回は運営推進会議委員の協力で自主訓練を行っている。介護用品、米等の蓄えも用意されている。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会の折は必ず話題として扱っている。	理念の中に『生きる力』をいただいたり、さしあげたりしながら感謝しあって暮らします』の一文があるように一人ひとりの人格を尊重しつつ、言葉かけや誘導にも感謝の気持ちをもって接している。排泄に失敗したような時にも誇りやプライバシーを損ねないように小声で話したり居室にそっとお連れするなどきめ細かく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり時間をかけ、聞き出すことなどに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日のスケジュールに沿ってもらうが一人ひとりのペースを大切に介護を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整髪、口腔衛生、時々の散髪、髭剃り、爪切りなどに心がけお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けや行事食(お彼岸のおはぎ)夏の枝豆もぎ、ずんだ作りなど、一緒にすることがある。	献立は2名の職員が中心になって入居者の好みのものや季節感のあるものを作っている。介助を必要とする方が若干名いるが、殆どの方は見守りを受け自力で食べることができる。トロミ食やキザミ等、食形態にも配慮がされている。夏場になるとホーム北側の畑でトマト、ナス、キュウリなどの野菜が収穫され食卓を彩っている。トレイ拭きを手伝ってくれる入居者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価1480カロリー水分補給1000ミリリットルを確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは毎食後、入れ歯の滅菌(週3回)を実施している。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を旨としている。自立2名、介助3名、オムツ1名。	排泄パターンや本人の様子からトイレに誘導し、出来るだけオムツに頼らない支援を行い、トイレで排泄をようしている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をし、運動も取り入れている。医師との連携をとり個々には服薬もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴実施だが、午後の時間に統一している。	3人ずつの2班編成で一日毎交互に入浴するようになっていく。シャワー浴の方が若干名いるが、入浴を拒む方は現在のところいない。一人ひとり本人の体調に合わせた入浴支援が行われている。年2回、家族会も兼ね馴染みとなった温泉地へ日帰り出掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息ができるよう暖房や静けさに配慮している。昼寝時は、廊下ですぐ利用者もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、飲み間違いのないよう、名前と日付を確認して飲むこと、また、利用者の症状の変化の確認に努め医師との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会、会食会、運動会、クリスマス会、新年会、花見、善光寺詣り、温泉旅行、菊見、ドライブ等実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族やご近所の人たちと外出をして喜ばれた。菊花展、動物園、温泉旅行など。	天気の良い時に敷地内の池の鯉に餌をやることを楽しみとしている入居者もあり、出来るだけ陽にあたるようにしている。暖かい時季には車椅子の方もホーム周辺を交代で散歩している。例年、車に分乗し、お花見、善光寺詣り、バラ公園や菊花展の見学などに外出し、家族会も兼ね年2回日帰り温泉も楽しんでいる。ホームだよりの外出時の写真からはいきいきとした入居者の笑顔があふれ、ほのぼのとした気持ちにさせてくれる。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持って数えることはしているが、実際に使うことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送った。家族からくる手紙をはなさず読んでいる人もいる。返事の手紙が書けない人には、本人と話し、その後で職員が様子を細かに電話してさしあげる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共同空間づくりの工夫を心がけている。	玄関を入ると広いホールになっており、グランドピアノや大きな仏壇がある。南側の廊下は広く、ソファが置かれ日光浴が出来る。北側の廊下は暖房が入り、隅には洗濯物が干され何処の家庭でも見かける冬の光景が見られる。台所に続いて食堂があり、テレビも置かれている。随所にある段差は補修され、車椅子にも対応が来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の長いすは、利用者にとって思い思いに過ごせる場所だと思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただき安心して過ごせる居室となるよう心がけている。	民家改修型のホームであるので居室は色々な間取りになっており、床の間や欄間などがある独自の形となっている。家族からの絵手紙や家族の写真が飾られていたり、使い慣れたベッドや筆筒なども持ち込まれ、入居者の思いがそれぞれ感じられる居室となっている。ベッドや家具の位置も本人、家族が相談し使い勝手が良いように置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには、自立して移動できる工夫をしている。		